



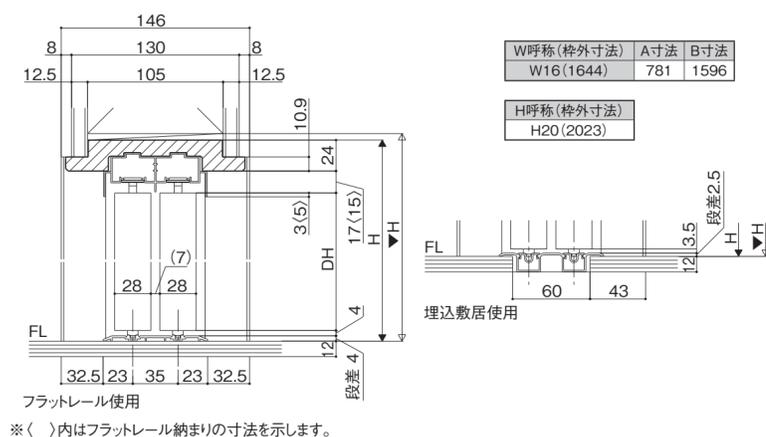
TOSTEM

リビング建材
ウッディーライン **スマート枠 Vレール引戸**

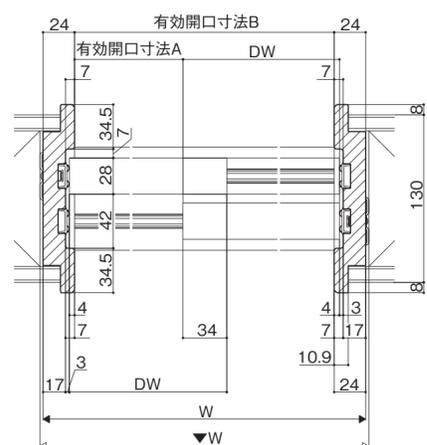
取付け説明書

■引違い戸(2枚建)ユニット

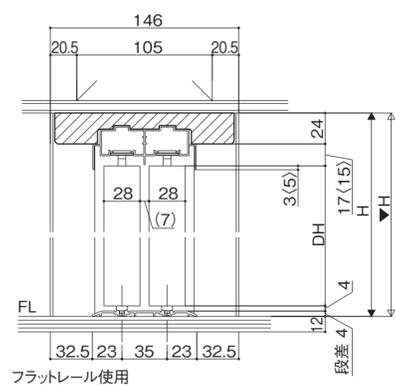
●縦断面図



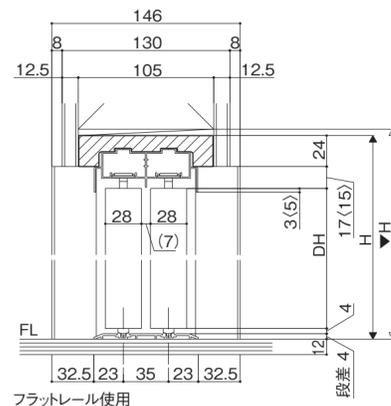
●横断面図



上枠クロス巻き納まり縦断面図



天井納まり縦断面図



- この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。
- この説明書は特別対応の「上枠クロス巻き納まり」「天井納まり」の取付け説明を含んでいます。

■取付けされる方へのお願い

- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

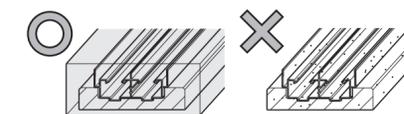
●建付け調整後、本体上端とレール下端のチリ寸法が8mm以下であるか確認してください。本体と枠の間にすき間が生じ、本体が枠から外れやすくなり、ケガや故障の原因になります。

■取付け上のお願い

- 本製品は、スマート枠146用は壁厚(124~130mm)、スマート枠161用は壁厚(139~145mm)。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠の取付け時には、ゆがみ・ねじれなどのないように(特に中縦枠)注意してください。
- 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくって納めてください。
- 縦枠と柱・間柱とのすき間は、枠固定金具を調整して柱とあてて内装ボードを必ず縦枠に突きあててください。突きあてができない場合は、かい木を入れてください。鴨居とまぐさのすき間は必ずかい木を入れてください。
- かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 本体は落下させたり、立てかけるときに衝撃を与えないでください。戸車部の樹脂部品がキズ付き、開閉に支障をきたすおそれがあります。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- ソフトクローズ部品に潤滑剤などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
- 鴨居をクロス巻き仕上げを行う場合は、必ず裏面に木工用接着剤を塗布してください。MDFが縮みクロスにシワが発生する事があります。

●お願い

※枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトクローズ部品に混入し、作動不良の原因となります。



■部品・部材の明細

■枠セット

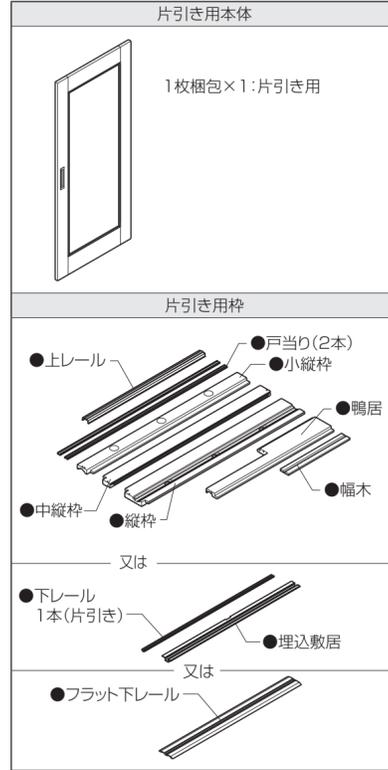
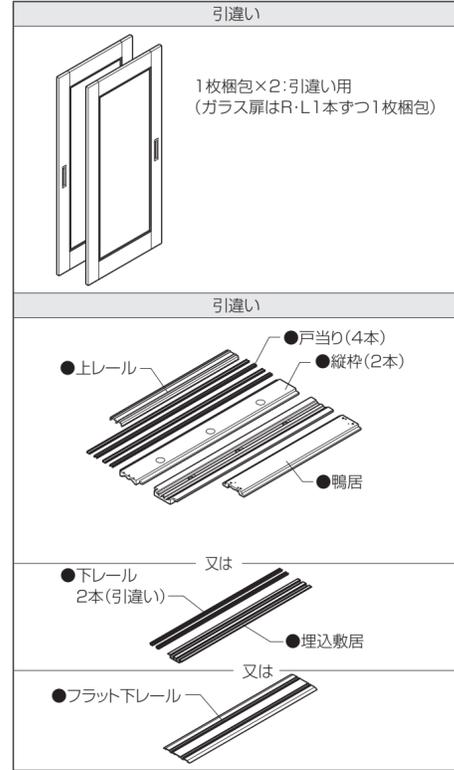
		引違い	片引き
枠	鴨居	1	1
	縦枠	2	1
	中縦枠	—	1
	小縦枠	—	1
	上レール	1	1

		引違い	片引き
部品セット	引違い用	1	—
	片引き用	—	1

		引違い	片引き
敷居	敷居	1	1
	下レール	2	1

■部品・部材の明細

※枠はノックダウン、本体は完成品



■部品セット

【片引き用・引違い用(スマート146/161)】

組立て用皿小ねじM4×50	4本
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	※8本
縦枠取付け用なべタッピンねじφ4×40	6本

※予備用含む
※WL NC156と兼用しています
※天井納まりには、部品セットが2個入っています。

【片引き/フラットレール】

レール取付け用タッピンねじφ4(D6)×18	14本
端部ピース	2個
中縦枠下部スペーサー(使用しません)	1個

【引違い/フラットレール】

レール取付け用タッピンねじφ4(D6)×18	14本
端部ピース	2個

【片引き/埋込敷居用】

レール取付け用タッピンねじφ4(D6)×30	5本
中縦枠下部スペーサー(使用しません)	1個

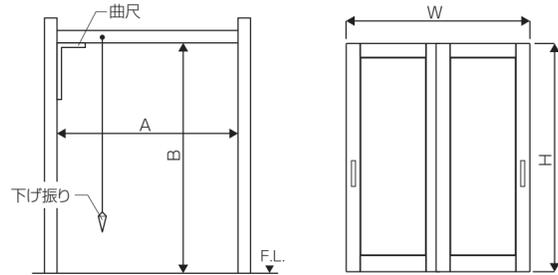
【プッシュ錠セット】

プッシュ錠本体	1個
錠座カバー	1個
プッシュ錠取付け用皿タッピンねじφ3.5×8	2本

■開口部の作り方

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

開口寸法A	製品寸法W+5mm
開口寸法B	製品寸法H+床厚+5mm
天井納まり寸法B	製品寸法H=床~天井高寸法



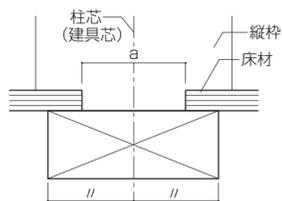
■床の張り方

【埋込敷居の場合】

●引違い・3・4枚建

※床材は、柱芯(建具芯)を中心にa寸法あけて張ってください。

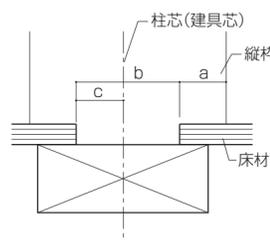
枠機種	a寸法 (単位:mm)
引違い	60



●片引き

※床材は、柱芯(建具芯)より引込み側にb寸法あけて張ってください。柱芯と建具芯が合っていない場合は、縦枠端部よりa寸法内側に入った所にb寸法あけて張ってください。

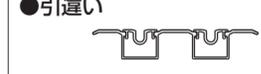
	(単位:mm)		
枠機種	a寸法	b寸法	c寸法
スマート146	43	30	0
スマート161	58	30	7.5



【埋込敷居】

●片引き

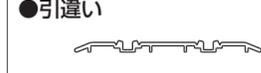
●引違い



【フラット下レール】

●片引き

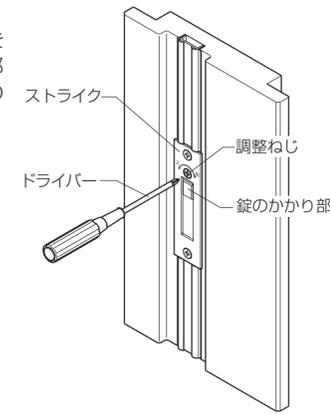
●引違い



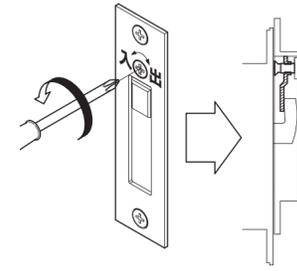
※フラットレールを使用する場合、床乗せの仕様になるため、床の開口をつくる必要はありません。

【引戸錠のかかり調整】

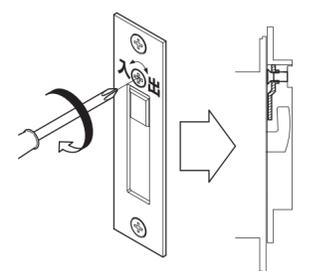
●ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



●本体と枠のすき間が大きい場合
調整ねじを左に回して調整してください。



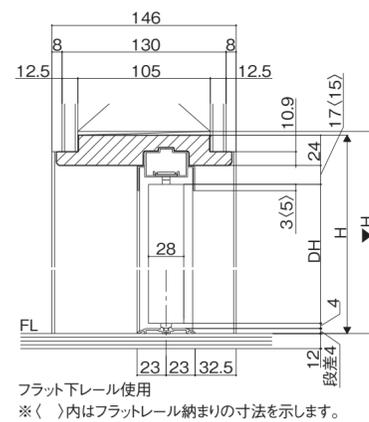
●錠がかかりにくい場合
調整ねじを右に回して調整してください。



■納まり図

■片引戸ユニット

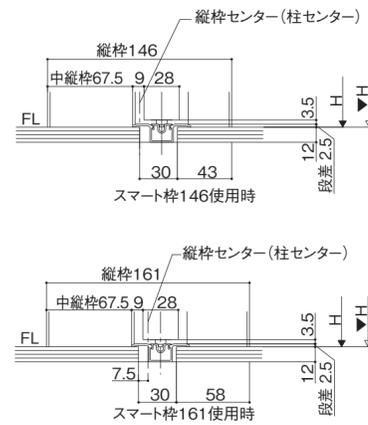
●縦断面図



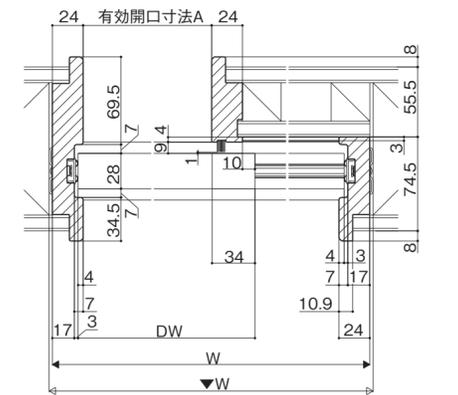
フラット下レール使用
※〈 〉内はフラットレール納まりの寸法を示します。

W呼称(枠外寸法)	A寸法	H呼称(枠外寸法)
W16(1644)	781	H20(2023)

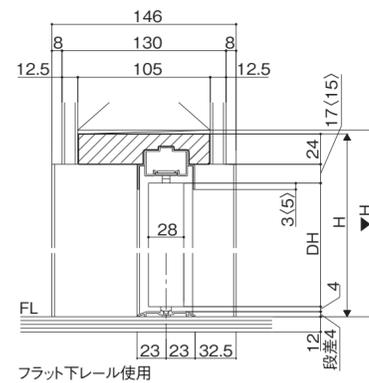
埋込敷居納まり図



●横断面図

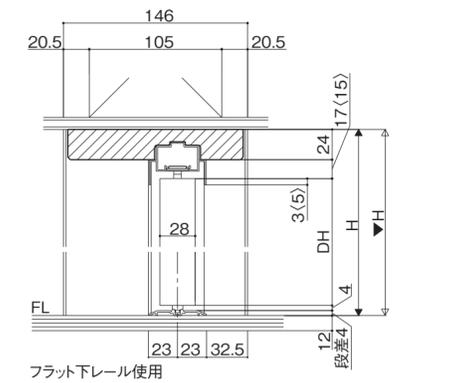


上枠クロス巻き納まり縦断面図



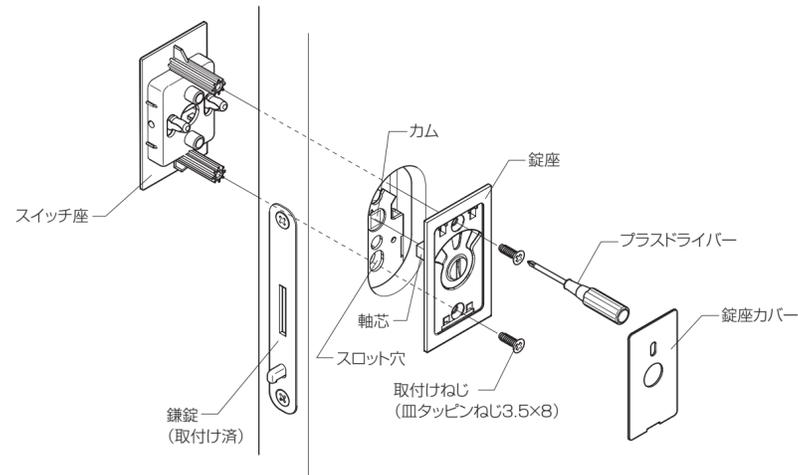
フラット下レール使用

天井納まり縦断面図



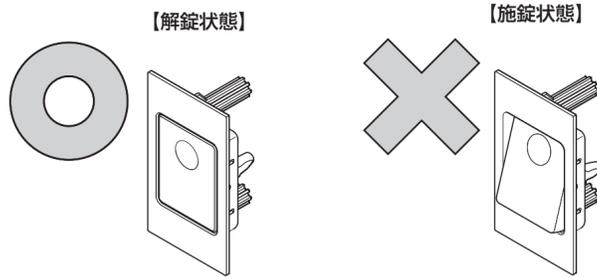
フラット下レール使用

■プッシュ錠の取付け

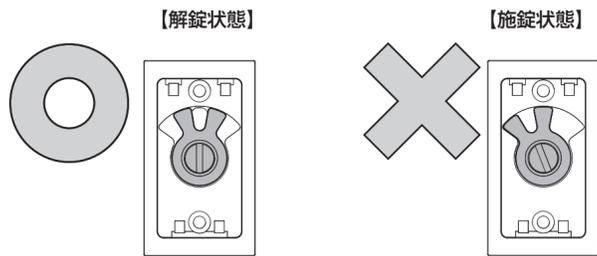


【錠の取付け】

①スイッチ座が解錠状態（フラットな状態）になっていることを確認して、スイッチ座を錠錠のスロット穴に差込んでください。



②スイッチ座の軸心が解錠状態になっていることを確認して、錠座の軸芯を錠錠のカムに差込んでください。



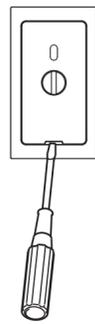
③スイッチ座と錠座を取付けねじで固定してください。

●お願い
※必ず手回しドライバーでネジを固定してください。
※取付けねじを締め付け過ぎないでください。錠座が反ります。

④錠座カバーを錠座に取付けてください。

【錠の取外し】

①錠座カバー下部の切欠き部にマイナスドライバーを差込んで錠座カバーを外してください。



●お願い
※無理矢理カバーを外さないでください。錠座カバーが破損するおそれがあります。

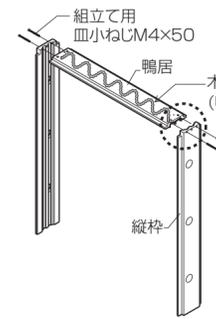
②スイッチ座と錠座の取付けねじを緩めてください。

③錠座とスイッチ座を外してください。

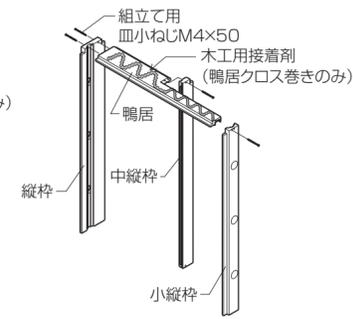
■枠の組立て〔埋込敷居・フラット下レール使用の場合〕

●下図のように、各部材を組合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。
●鴨居クロス巻き納まりの場合は、裏面に木工用接着剤を塗布してください。

●引違い枠

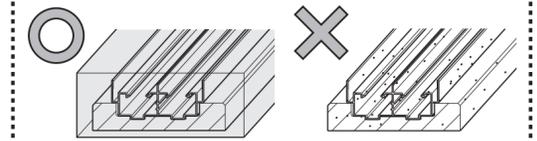


●片引き枠



※天井納まりの場合は、3方枠組み立ては行いません。

●お願い
※枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトクローズ部品に混入し、作動不良の原因となります。



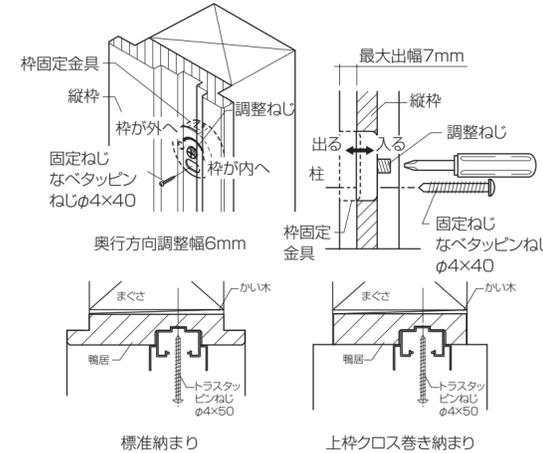
※鴨居をクロス巻き仕上げを行う場合は、必ず裏面に木工用接着剤を塗布してください。MDFが縮みクロスにシワが発生する事があります。

■枠の取付け

〈標準納まり、上枠クロス巻き納まりの場合〉

- ①縦枠に取付けられている枠固定金具(縦枠に3個取付け)の調整ねじを時計回りに回し、金具を均等に出してください。
 - ②枠の垂直を確認してください。
 - ③固定ねじ(なべタッピンねじφ4×40)を枠固定金具の長穴中央部より締付けてください。
 - ④枠の奥行方向の倒れを確認してください。倒れている場合は、固定ねじをゆるめ、枠を動かします。(奥行方向の調整幅は6mmです。)調整後、ねじを固定してください。
 - ⑤枠の垂直を確認してから、枠固定金具の取付いている部分の開口寸法が均等になるように調整してください。
 - ⑥再度、枠の垂直を確認してください。
 - ⑦鴨居にかい木を入れて取り付け穴すべてをトラスタッピンねじφ4×50で固定してください。
- ※縦枠の固定個所を増やしたい場合は、予備の鴨居取付けねじ(トラスタッピンねじφ4×50)で固定してください。

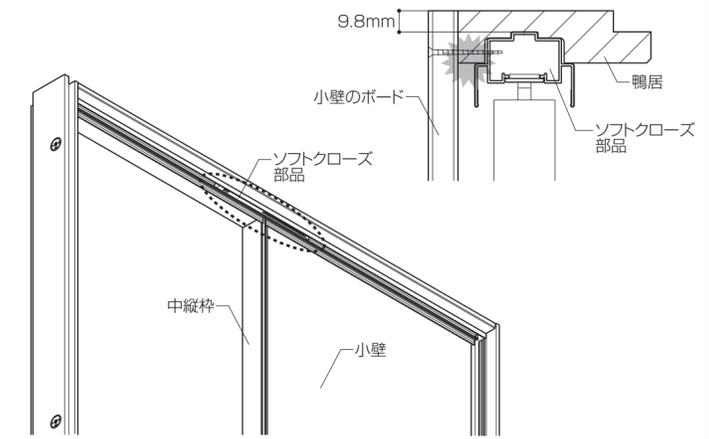
●縦枠・小縦枠



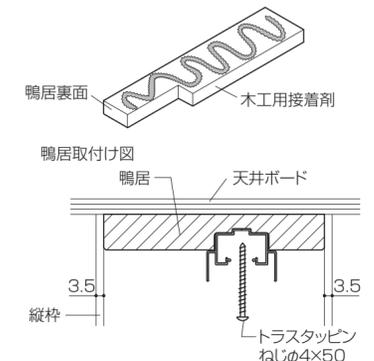
〈天井納まりの場合〉

- ①縦枠のみはじめに取り付けます。縦枠に取付けられている枠固定金具(縦枠に4個)にて取付けを行なってください。(取付け詳細は標準納まりと同じです)
 - ②鴨居裏面に木工用接着剤を塗布して取り付け穴すべてをトラスタッピンねじφ4×50で固定してください。
- ※縦枠の固定個所を増やしたい場合は、予備の上枠取付け用トラスタッピンねじφ4×50で固定してください。
- ※鬼目ナット位置のボードは少し掘り込みを行い、ボードと鴨居を密着させてください。
- ※戸じり側キャッチ特注の場合は、一度ブレーキを外して鴨居取付けビスで固定後に、再度ブレーキを取付けてください。

●お願い
※枠固定金具の調整には電動ドライバーを使用しないでください。
※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工してください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。
※片引き・引分けの建具引込み部の小壁は、枠を開口部に取付けてから施工してください。小壁のボードを取付ける際、取付ビスが鴨居と鴨居レールを貫通しないように注意してください。中縦枠をまたぐ位置にソフトクローズ部品があるため、部品が破損し、作動不良の原因となります。



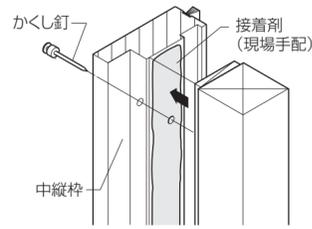
※鴨居の躯体固定ねじを締めすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合はねじをゆるめてください。



●中縦枠（各納まり共通）

※裏面に接着剤（現場手配）を塗布し、専用のかくし釘で固定します。

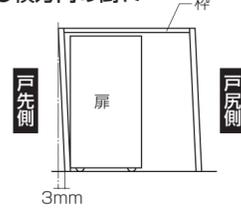
■スマート枠の場合



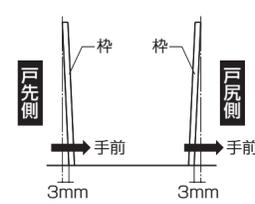
■取付け精度の許容範囲

※横方向の倒れ・奥行き方向のねじれ・枠のタイコ・ツツミが3mmを超える場合は、3mm以内になるように取付けを修正してください。（引戸が吊込めない・ソフトクローズ機構の作動不良の原因となります。）

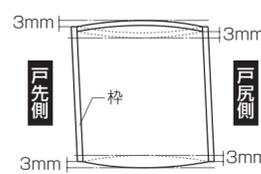
●横方向の倒れ



●奥行き方向のねじれ



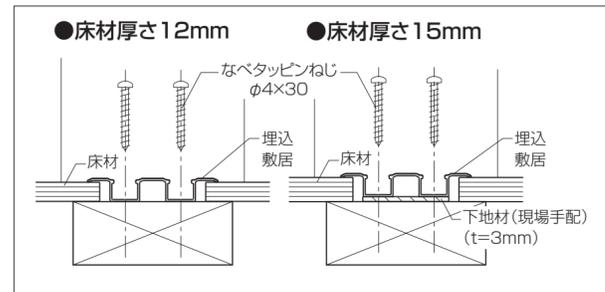
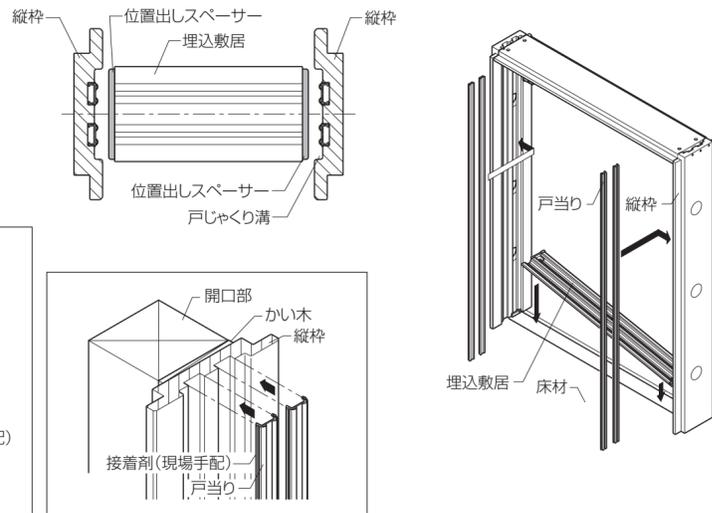
●枠のタイコ・ツツミ



【埋込敷居の取付け】

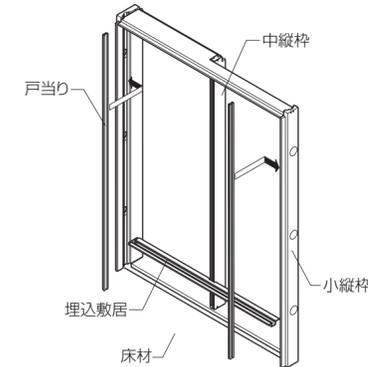
●引違い枠

- 埋込敷居に付いている位置出しスペーサーを、縦枠の戸じゃくり溝に合わせます。
 - 同梱のねじで固定します。
 - 戸当りに接着剤（現場手配）で溝をふさぎます。
- ※戸当りは必ず、敷居取付け後に取付けてください。



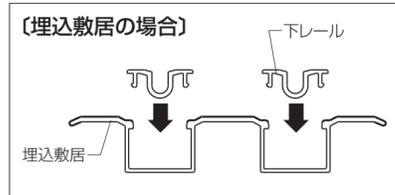
●片引き枠

- 引違い枠を参照してください。

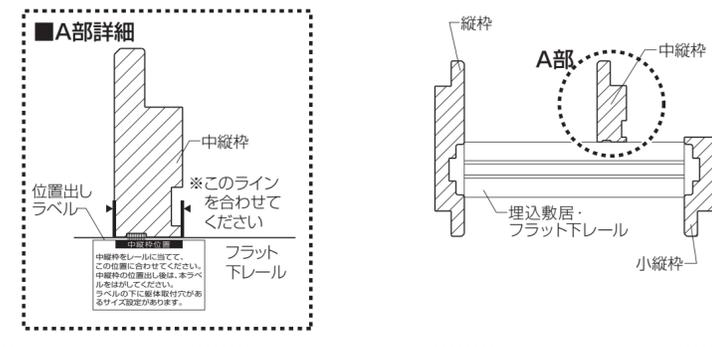


下レールの取付け

- 敷居の溝にプラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。



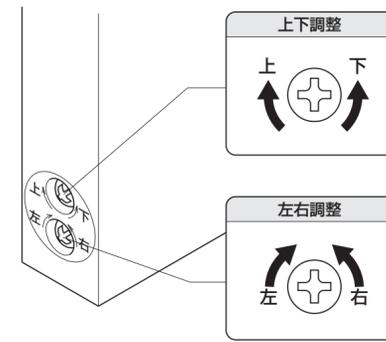
- 片引戸・中縦枠の位置出しは、埋込敷居およびフラット下レールの位置出しラベルに合わせて取付けてください。



■引戸本体の調整

【上下調整（調整幅+4mm、-2mm）】

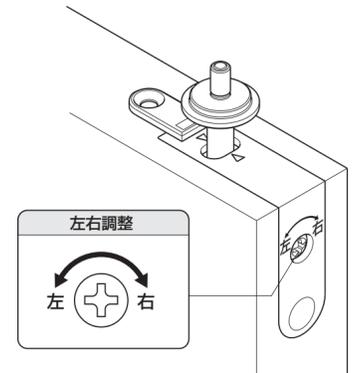
- 本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。



【左右調整（調整幅±2mm）】

- 本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。
- 本体両上端の左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。

●お願い
※左右調整する場合は、本体同士がぶつからないように注意してください。又、本体と中縦枠モヘアが接触しすぎて、開閉が重くならないよう調整してください。



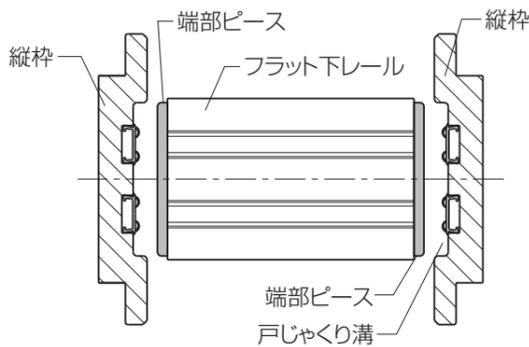
■ソフトクローズ機能 異常時の対処方法

現象	チェックポイント	対処方法
閉まりきらない すき間	●下レールに粉塵やゴミがたまり付着している	清掃してください。 ※この面に付着している汚れをふき取ってください ※この部分にたまっているゴミを吸い取ってください
STOP!	●ガイドローラーが上レールのセンターと芯がズレている	ガイドローラーの左右調整ねじで芯を合わせてください。 ■ガイドローラーの調整 左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。（調整幅左右各2mm）
●本体とモヘアが接触している ※片引き・引分けのみ	中縦枠 額縁 本体	戸車とガイドローラーの左右調整ねじで本体にモヘアが触れて開閉が重くならないように調整してください。 ■戸車の調整 左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。（調整幅左右各2mm） ■ガイドローラーの調整 左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。（調整幅左右各2mm）
●下レールの端部が敷居から浮いている ※下レールの端部が浮き上がっている	縦枠（戸先側） 敷居	下レールをすき間なくたたき込んでください。 ※必ず当て木をして、下レールをたたき込んでください。
●枠の取付け精度が許容範囲をオーバーしている ※【取付け精度の許容範囲】の欄参照		許容範囲内となるように再施工してください。
●上レールの取付状態で(a)寸法が狭まっている（レール端部躯体ねじ取付箇所）	上レール	(a)寸法が14.2±0.3になるようにレールを矯正してください。 矯正 ← → 矯正
●ソフトクローズ部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある		ソフトクローズ部品の交換が必要です。
ブレーキが効かない	●ソフトクローズ部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある	ソフトクローズ部品の交換が必要です。
※ブレーキの効きには限界があります。重量の重たい本体を速く閉めるとブレーキ感を弱く感じたり、逆に重量の軽い本体・Wサイズの小さい本体を速く閉めるとブレーキ感を強く感じたりします。		

〔フラット下レールの取付け〕

①端部ピースの取付け

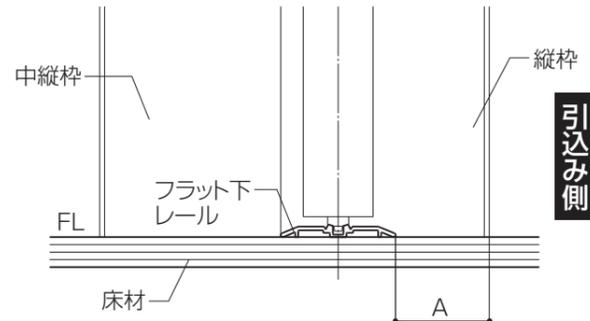
※フラット下レールに同梱されている端部ピースを縦枠戸じゃくり溝側にはめ込みます。



②縦枠に合わせて仮置きしてください。

●片引き枠

※引込み側にA寸法あけて仮置きしてください。



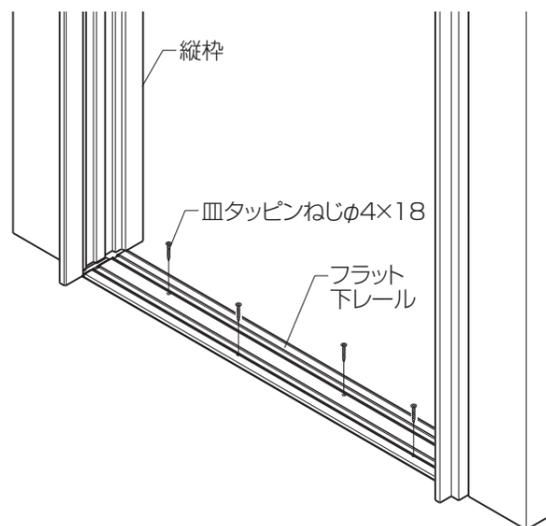
枠種類	A
スマート 146	32.5
スマート 161	47.5

※中縦枠部は〔埋込敷居の取付け〕を参照してください。

●引違い枠

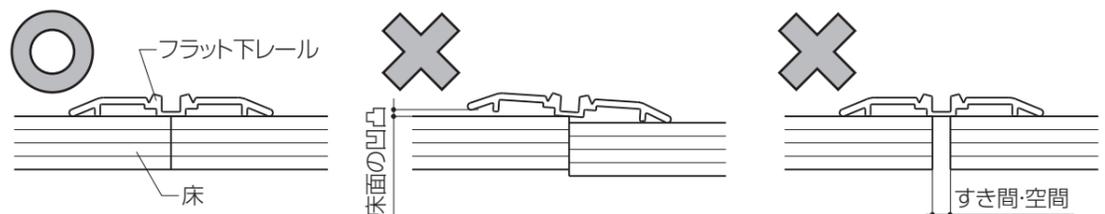
※はめ込んだ端部ピースを縦枠の戸じゃくり溝に合わせます。

●フラット下レールをねじ(皿タッピンねじφ4×18)で固定します。



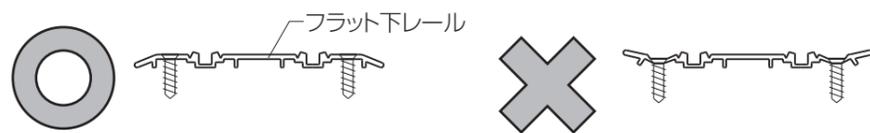
お願い

※フラット下レールを固定する床(下地)は段差やすき間がないように仕上げしてからレールを固定してください。



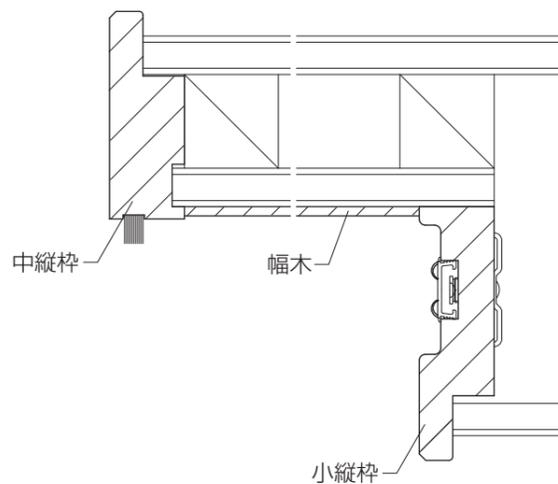
お願い

※フラット下レールを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レールが変形し、本体開閉不具合の原因となります。



③幅木の取付け

※片引き用枠には、小壁のボードと埋込敷居又はフラット下レールを見切るために幅木が同梱されています。必ずご使用ください。幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤(現地手配)を塗布し、専用のかくし釘で固定します。かくし釘のピッチは、200~300mmです。



④鴨居をクロスにて仕上げる(特別対応品)

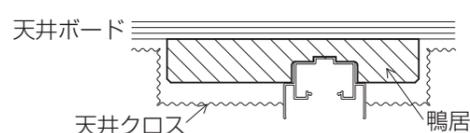
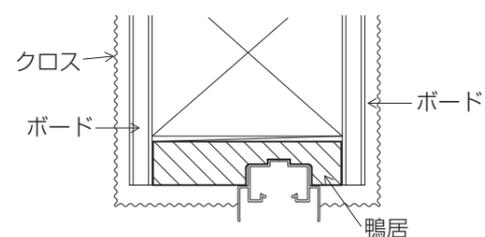
【鴨居クロス巻き納まりの場合】

- ①壁ボードを施工後に壁クロスにて鴨居を巻き込むように仕上げを行います。
 - ②鴨居は、クロス貼り可能な紙シートにてラッピングしていますので通常のクロスノリにて、クロスを貼る事が出来ます。
- ※必要に応じて、ボードコーナ処理やボードと枠のスキ間のパテ処理を行なって下さい。

【天井納まりの場合】

- ①天井クロスにて鴨居を覆うように仕上げを行います。
- ②鴨居は、クロス貼り可能な紙シートにてラッピングしていますので通常のクロスノリにて、クロスを貼る事が出来ます。

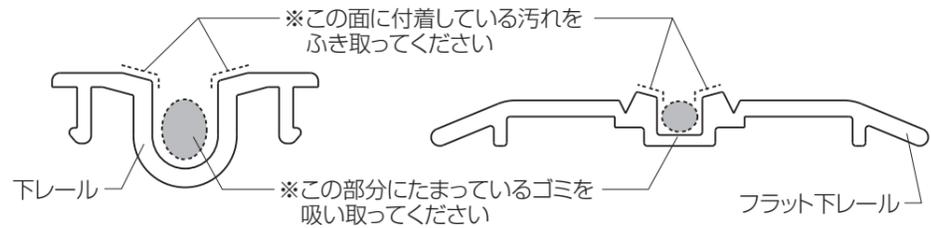
●鴨居



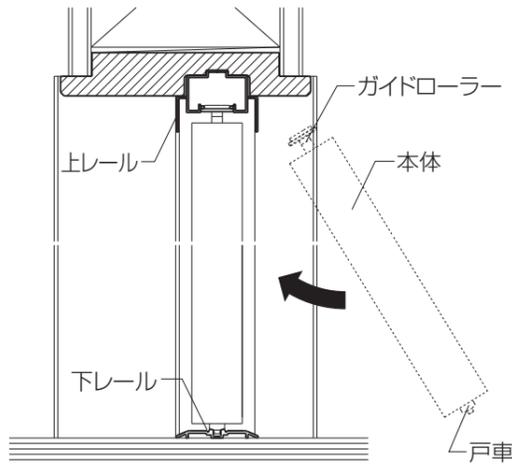
5 本体の吊込み

※本体の吊込み前に以下の作業を行ってください。

①レールの清掃を行ってください。

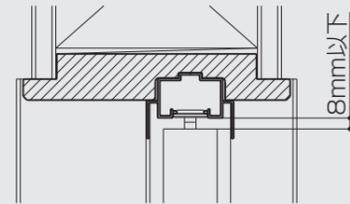


②本体を持ち上げて、本体上部のガイドローラーを上レールにはめ込み、その後、本体下部の戸車を下レールにはめ込みます。



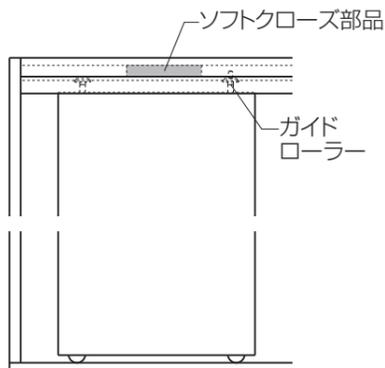
▲ 注意

●建付け調整後、本体上端とレール下端のチリ寸法が8mm以下であるか確認してください。本体と枠の間にすき間が生じ、本体が枠から外れやすくなり、ケガや故障の原因になります。

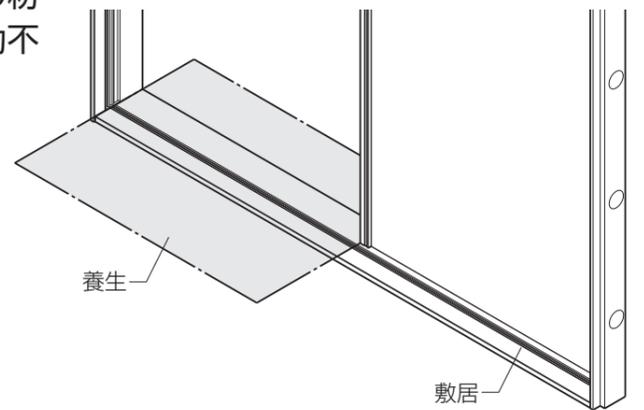


お願い

- ※本体を吊込む際は、ガイドローラーとソフトクローズ部品の位置を確認してください。(下図参照)ソフトクローズ機構が正しく作動しない場合があります。
- ※ソフトクローズ部品とガイドローラーが干渉しない位置で吊込みを行ってください。



- ※ソフトクローズ機構調整後、現場作業が続く場合は敷居を養生してください。現場の粉塵がレールに付着し、作動不良の原因になります。



- ※本体に寄掛からないでください。無理な力が加わると、本体が枠から外れやすくなり、ケガや故障の原因になります。

■ソフトクローズ機構の自動復帰方法

※本体を吊り込んでソフトクローズ機構が作動しない場合は以下の手順を行うことでソフトクローズ機構が自動復帰します。

- ①本体を全開してください。
- ②本体を全閉してください。
- ③①、②を1～2回繰り返してください。ソフトクローズ機構が復帰します。

※必ず縦枠に当たるまで全開・全閉を行ってください。

※開閉はゆっくりと行い、ソフトクローズ機構復帰後は本体を無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。作動不良の原因となります。

